

これらの条件で行ないました。スライドは、標準曲線を示します。標準曲線上の縦のバーは、Standard Deviation を示します。測定範囲は、実用上問題のない範囲と思われます。(0.45~7.0 n mol/l, 0.29~4.56 ng/ml)。

スライド 6. スライドは、回収率の検討を示しております。測定値が低い場合、および高い場合には、回収率はあまり良好ではありませんが、実用範囲では、ほぼ満足すべきものと思われます。

スライド 7. スライドは、稀釈率の検討を示しております。4倍稀釈までは、良好な結果が、得られております。

スライド 8. スライドは、再現性の検討を示しております。スライド上段は、同一 assay 内における再現性を示しております。中段は、4つの異なる assay 間における再現性を、下段は、2つの Assay 間—assay A, assay B における再現性を示しております。いずれも良好な結果が得られました。

スライド 9. スライドは、他のラジオイムノアッセイ法との比較を示しております。ダイナボット PEG 法での値を横軸にとり、本法による値をたて軸にとり、ng/dl で示してあります。相関係数 0.928 と良い相関を示しております。

スライド 10. スライドは、デカント試薬との比較検討を示しております。original の方法に比べ、T 分の B₀ も低く、測定値も、全体的に低値を示す傾向が認められました。

以上われわれは、Sephadex を用いる、Phadebas T₃ RIA kit の検討を行ないましたが、本法は、血清 T₃ 値測定に有用であると思われます。

6. RIA (固相法) による T₄ の測定

木下 文雄 船橋 哲哉

川上 亮二 鳥屋 城男

高橋 日和

(都立大久保病・放)

小須田 茂 久保 敦司

(慶大・放)

正常者および各種甲状腺疾患患者の同一血清を用いて、固相法によるトラベノール—パシフィック社の Gammacoat T₄ RIA kit と第一ラジオアイソトープの SPAC T₄ RIA kit の使用経験を得た。

Euthyroid と hypothyroidism それに hyperthyroidism の3者のサイロキシン値に重なり合いはみられなかった。simple diffuse goiter, simple nodular goiter, malignant goiter は全例正常範囲内の T₄ 値を示した。

chronic thyroiditis, subacute thyroiditis では、その臨床所見を正しく反映し、hyperthyroidism では、その治療状態を正しく反映した。

他の RIA kit や CPBA と非常によく相関し相関係数は +0.97~+0.98 であった。

操作法は他の RIA kit に比して非常に簡単で、遠心分離の必要もなく、インキュベーションは温浴または室温で1回でよく、検査の自動化に最も適した方法と思われた。

7. RIA による抗サイログロブリン抗体 (CIS-SORIN) 測定法の基礎的ならびに臨床的検討

貴田 智子 井上 健

児島 孝典 宮本 正浩

伴 良雄 飯野 史郎

(昭和大藤が丘病・内分泌代謝)

今回われわれは、CIS で開発された抗サイログロブリン測定用 RIA キットを試用し、若干の検討を試みたのでその結果を報告する。

本法は抗原を吸着した試験管を用いて血中の抗体をこの抗原に結合させ、抗原抗体結合物に標識